

完了後の評価個表

整理番号	森1-1
------	------

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	秋田県
ふりがな 地域(地区)名	ゆりほんじょうし 由利本荘市	事業実施主体	秋田県、由利本荘市、 本荘由利森林組合、林業公社等
関係市町村	由利本荘市	管理主体	由利本荘市
事業実施期間	平成18年度～平成22年度（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 本地区は秋田県の南西部に位置し、南に標高2,236mの秀峰鳥海山、東に出羽丘陵、西に日本海を望み、中央を1級河川子吉川が貫流して日本海に注いでおり、秋田県内でも温暖で降雪量の少ない地区である。</p> <p>② 森林の状況 本地区の森林面積は89,374ha（森林率74%）で、そのうち民有林面積は70,128ha（78%）である。民有林の人工林面積は41,349ha（人工林率59%）で、樹種はスギが大半を占めており、間伐等の森林整備が必要なIV齢級からⅧ齢級の森林は32,665ha（79%）となっている。 また、地区内の森林のうち、9,226haが水源かん養保安林、2,517haが土砂流出防備保安林に指定されており、森林の有する公益的機能を高度に発揮させるための適切な森林整備が必要となっている。</p> <p>③ 本地区を整備する目的・意義 本地区においてはこれまでに41,349haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しており、間伐等の適切な森林整備を必要としていた。しかしながら、木材価格の低迷等に伴い、森林所有者等の施業意欲が減退し、森林の有する公益的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 また、本地区では森林経営の基盤となる林道等の路網が十分に整備されていなかったことから、適切な森林整備の実施や効率的な木材生産に支障を来していた。 このため、計画的に間伐等の森林施業を推進するとともに、効率的に森林整備等を行うための林道を整備することにより、森林の有する公益的機能の維持・増進を図り、森林環境の保全に資することを目的として事業を実施した。</p> <p>(事業概要) 森林整備 植栽 289ha、下刈り 1,515ha、雪起こし 634ha、枝打ち 1,371ha、 除間伐等 5,840ha、作業路整備 237,946m</p> <p>林道整備（森林管理道） ・蒲台線 車道幅員 3.0m 開設延長 1,715m 利用区域面積 218ha</p> <p>総事業費 4,601,146千円 （当初総事業費 4,422,925千円）</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成28年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業内容の変更、保育間伐から搬出間伐への転換、長伐期施業への方針転換などに伴い、事業採択時に比べ総事業費・総便益・総費用が増となった。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">総便益（B）</td> <td style="width: 30%;">91,495,570千円</td> <td style="width: 30%;">（事業採択時 60,864,093千円）</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td>13,992,751千円</td> <td>（事業採択時 9,052,677千円）</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B/C）</td> <td>6.54</td> <td>（事業採択時 6.72）</td> </tr> </table>	総便益（B）	91,495,570千円	（事業採択時 60,864,093千円）	総費用（C）	13,992,751千円	（事業採択時 9,052,677千円）	分析結果（B/C）	6.54	（事業採択時 6.72）
総便益（B）	91,495,570千円	（事業採択時 60,864,093千円）								
総費用（C）	13,992,751千円	（事業採択時 9,052,677千円）								
分析結果（B/C）	6.54	（事業採択時 6.72）								
② 事業効果の発現状況	<p>本事業で植栽したスギの成長は良好で、間伐等を行った箇所とともに多様な環境を持つ健全な森林として育成され、公益的機能の高度発揮に期待が持てる森林が整備された。 林道の開設により、低コストな木材輸送が可能になり、本林道の利用区域内において142haの間伐が行われるなど、森林施業が活性化された。</p>									
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>本事業で整備された森林は、森林所有者自ら、又は、所有者から経営委託を受けた森林組合により適切に管理されている。 本事業により開設された林道は、由利本荘市が定めた林道維持管理規程に基づき適切に管理されている。 地元住民による年2回の草刈や側溝掃除等が行われており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>									
④ 事業実施による環境の変化	<p>森林整備が実施され林内の明るい単層林や複層林、針広混交林が整備され、森林の景観の向上や生物多様性が高まった。 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>									
⑤ 社会経済情勢の変化	<p>林道の開設で、高性能林業機械の使用が容易となり、労働強度の軽減や生産性の向上が図られた。</p>									

<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林資源の成熟に伴い、素材生産効率の高い皆伐が増加しているが、その跡地への再造林は、木材価格の低迷や森林経営意欲の減退などにより進んでいない。 造林未済地を解消し、森林の有する公益的機能の発揮や資源の循環利用を図るためには、一貫作業システムを始めとする低コスト造林を推進する必要がある。</p> <p>(地元の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。(秋田県) ・ 林道開設後は、沿線の小溪流等への散策へ訪れる者の増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。(由利本荘市) ・ 森林整備に伴い、国道、県道及び市道の沿線の危険木が除去され、通行上の安全が確保された。(由利本荘市)
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 森林整備及びその基盤となる路網整備が計画的に実施されたことにより、森林の持つ公益的機能の高度発揮に寄与していることから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 森林整備及び路網の計画・施行に当たっては、最も効果的・効率的となるような内容・規模で実施されており、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 林道整備により森林へのアクセス性が向上し、作業効率が向上した結果、森林整備が促進され、公益的機能の高度発揮が期待されることから、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名:森林環境保全整備事業

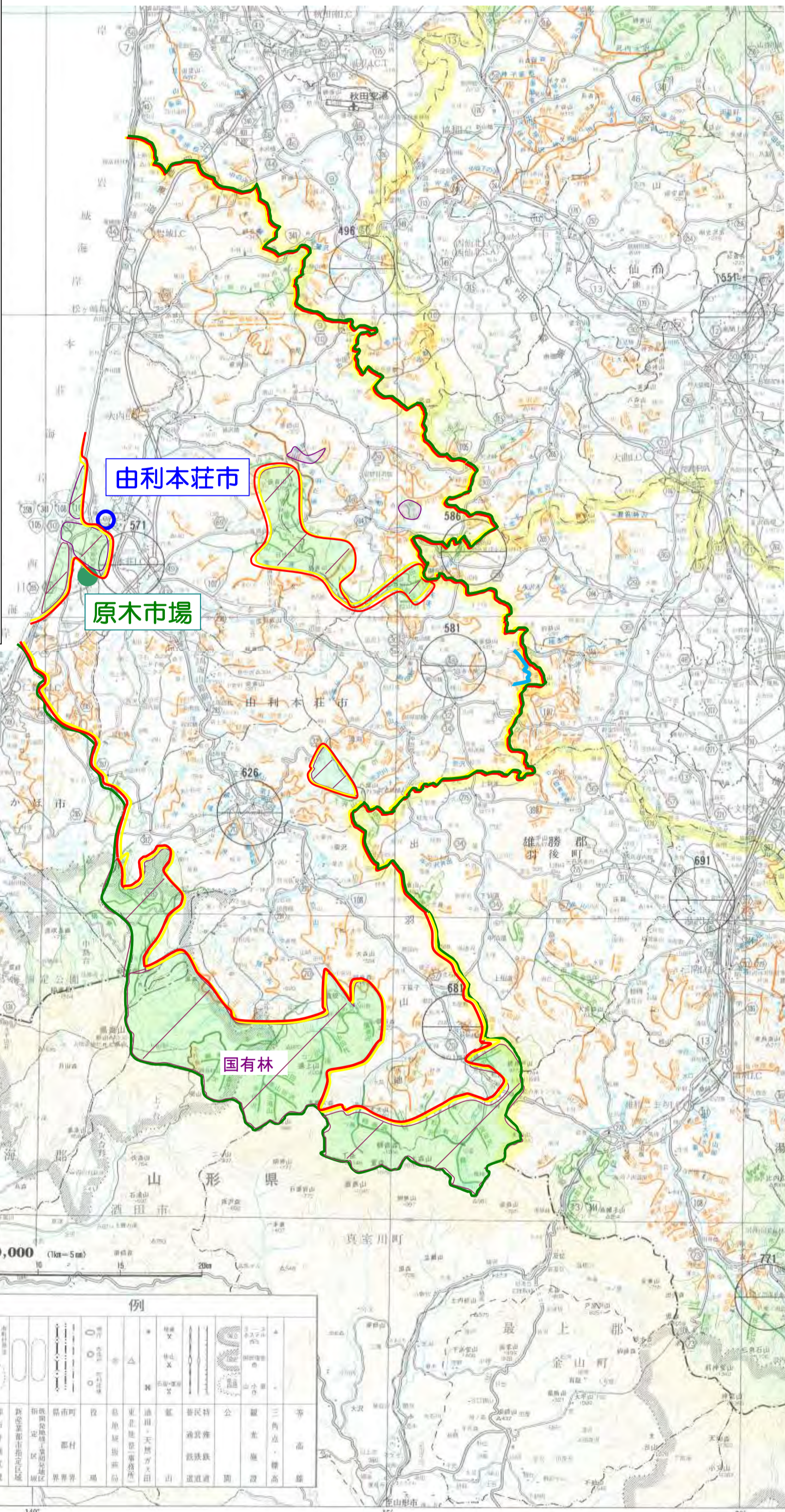
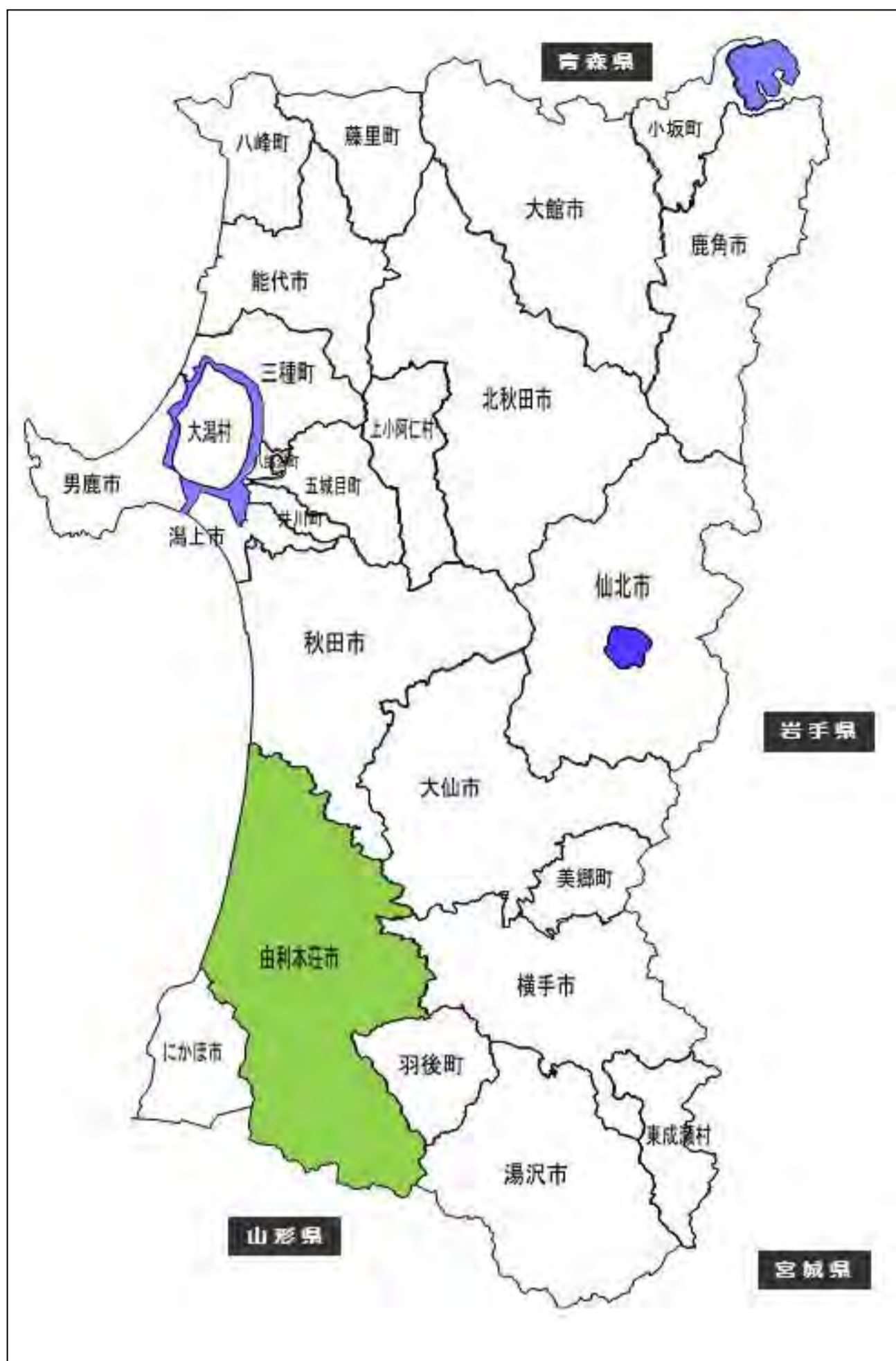
都道府県名:秋田県

地域(地区)名:由利本荘市

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	24,337,979	
	流域貯水便益	7,565,963	
	水質浄化便益	16,550,454	
山地保全便益	土砂流出防止便益	26,394,429	
	土砂崩壊防止便益	172,937	
環境保全便益	炭素固定便益	9,539,281	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	12,948	
	木材利用増進便益	20,179	
	木材生産確保・増進便益	6,656,584	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	498	
	森林管理等経費縮減便益	3,568	
	森林整備促進便益	240,750	
総 便 益 (B)		91,495,570	
総 費 用 (C)		13,992,751	
費用便益比	$B \div C = \frac{91,495,570}{13,992,751} = 6.54$		

森林環境保全整備事業 由利本荘市地区 概要図【秋田県】



凡	例	
(Green box)	国有林	
(Yellow dashed line)	民有林林道既設部分	
(Yellow dashed line)	民有林林道計画部分	
(Green dashed line)	国有林林道既設部分	
(Green dashed line)	国有林林道計画部分	
(Grey line)	県界	
(Yellow dashed line)	総合農林事務所界	
(Circle)	上段: 最大24時間雨量 下段: 最大時雨量	単位(mm)

凡	例
計画区界 (流域)	緑
事業区域	黄
森林整備	赤
市町村	○ 青丸
原木市場	● 緑丸

森林管理道	青
蒲台線	青

凡	例
河川	河川
道路	道路
市町村界	市町村界
鉄道路線	鉄道路線
山	山
海岸線	海岸線
境界線	境界線
境界点	境界点
境界線	境界線
境界点	境界点
境界線	境界線
境界点	境界点
境界線	境界線
境界点	境界点

秋田県農林水産部森林整備課